

Bulletion of Kagoshima  
Prefectural Archaeological Center

# From JOMON NO MORI

No. 13 CONTENTS

A case of stone producing area at the Simazu family graveyard  
of the Satsuma domain and a soul grave.

Tadahiro Kurokawa

About a syone wall Kagoshima castle after Genroku.(2)

Shiro Abiru

Producing area tilea made in Mashiki Town,Kumamoto Prefecture.

Shiro Abiru

〈Introduction of materials〉

Product made of fang from Euchi Shell mound.

On the Way Class Practice.

Tatsumi Yubasaki

View for the Archaeological Cultural Prorerties Management  
in Kagoshima Prefecture based on Statistical Data

Kouichirou Mori

Annual of Kagoshima Prefectural Archaeological Center of the 31th year in Heisei & 1st year in Reiwa

Kagoshima Prefectural Archaeological Center  
March 2021

研究紀要・年報

# 縄文の森から

From JOMON NO MORI

第13号

薩摩藩主島津家墓所における石材産地の一事例と招魂墓  
黒川 忠広

鹿児島城跡元禄以降の石垣について(2)  
阿比留 士朗

熊本県益城町所在土山瓦生産地について  
阿比留 士朗

〈資料紹介〉江内貝塚出土の牙製品

ワクワク考古楽(授業支援)の実践について  
湯場崎 辰巳

統計資料からみる鹿児島県の埋蔵文化財保護の  
これまでと今後の展望  
森 幸一郎

平成31・令和元年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
2021.03

研究紀要・年報

縄文の森から

第13号

二〇二一

鹿児島県立埋蔵文化財センター

# 『縄文の森から』第13号 目次

---

---

薩摩藩主島津家墓所における石材産地の一事例と招魂墓

黒川 忠広・・・・・・・・・・ 1

鹿児島城跡元禄以降の石垣について（2）

阿比留 士朗・・・・・・・・・・ 9

熊本県益城町所在土山瓦生産地について

阿比留 士朗・・・・・・・・・・ 14

〈資料紹介〉 江内貝塚出土の牙製品

・・・・・・・・・・ 19

ワクワク考古楽（授業支援）の実践について

湯場崎 辰巳・・・・・・・・・・ 21

統計資料からみる鹿児島県の埋蔵文化財保護の  
これまでと今後の展望

森 幸一郎・・・・・・・・・・ 31

平成31・令和元年度年報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

---

---



# ワクワク考古楽（授業支援）の実践について

湯場崎 辰巳

## On the Way Class Practice

Yubasaki Tatsumi

### 要旨

本稿では、平成30年度から令和2年度にかけて、県立埋蔵文化財センターが行った「ワクワク考古楽（授業支援）」における実践を2例掲載した。「埋蔵文化財センターの仕事内容→調査による発見や成果→学校周辺の近代化や西南戦争関連遺跡の紹介」という展開と、離島の学校を対象にした授業展開で、「学校周辺の遺跡の紹介→本物の土器・石器の活用→火起こし体験」という事例である。それらの実践例から見てきた授業の成果と課題を報告する。

キーワード ワクワク考古楽 授業の展開 火起こし体験 本物の活用

### 1 はじめに

県立埋蔵文化財センターでは、「まいぶん出前授業」（国師2012）として、要望のあった学校へ埋蔵文化財に関する授業を行っていた。しかし、上野原縄文の森の「おでかけ探検隊」との事業の重なりなどにより、積極的な出前授業は行われていなかった（「おでかけ探検隊」の支援という形では継続）。

そこで、平成29年度には、楽しく埋蔵文化財を紹介する目的で、「ワクワク考古楽」として、本土の学校を中心に授業支援を行うこととなった。平成30年度からは「西南戦争を掘り、学ぶ事業」として離島を含む学校への授業支援や一般向けの出前講座として事業化して取り組んでいる。

### 2 「ワクワク考古楽」とは

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、日本の近代化をリードし、明治維新から西南戦争の舞台に登場する先人たちの偉業にふれ、また、発掘調査成果で出土した銃弾や砲弾などの出土品や、蓄積された調査成果の縄文時代や弥生時代などの出土品にふれることにより、郷土の歴史をより深く理解することを目的として「ワクワク考古楽」と

令和2年度



「ワクワク考古楽」（授業支援）を募集しています

鹿児島県立埋蔵文化財センター

### 1 「ワクワク考古楽」について

みなさんの住んでいる地域で発掘された出土品など本物の資料を活用し、埋蔵文化財センター職員が授業を行います。もちろん、発掘現場での授業や発掘体験、資料の貸し出しも可能です。学校現場からの要望にできる限りお応えします。

### 2 「ワクワク考古楽」の対象

普段の授業、家庭教育学級、地域が育む「かごしまの教育」県民週間、職員研修等ありとあらゆる機会に実施可能です。校種は問いません。

### 3 令和元年度に実施した学校の感想（小学校3校・中学校3校・高校2校）

- ・身近な昔のことについての授業、楽しかったです。なぜなら、縄文から弥生時代の「おの」や「くわ」など、発掘された物に触れたからです。
- ・火起こし体験をして、昔の人の大変さがわかりました。
- ・自分たちの生まれた土地で起きた出来事をよく知らなかったが、今回の授業で地元で起きた西南戦争の内容をよく知ることができた。
- ・地域に近代化や世界遺産に関する遺跡があり、びっくりした。



- ・本物を使った授業なので、児童・生徒の目の輝きがすごかった。
- ・百聞は一見にしかず。説得力のある授業でした。
- ・生徒が普段以上に意欲的に取り組み、学習した内容と運動しており、復習としても効果的だった。



### 4 授業支援プラン例（内容は、各校種・学校の要望を含めて打合せます。）

時代・時期	内 容
縄 文	鹿児島島の縄文時代の人々の暮らし
古 代	薩摩国や大隅国における国府・国分寺の成立状況
中 世	応仁の乱と鹿児島島の状況
幕末～明治初期	客棧の近代化と西郷どんの明治維新
幕末～明治初期	西南戦争関連遺跡の発掘調査成果について
幕末～明治初期	「瀬ノ上と敷根」の火薬製造所跡について

※ 教職員や保護者向けの講座・研修にも対応（図書館の講座や先生方のフィールドワーク・高校の職員研修の実績あり）。また、火起こし体験と授業を組み合わせることも可能。

### 5 申し込み方法

- (1) 担任と県立埋蔵文化財センター担当との電話連絡でOKです。文書等による手続きは不要です。
- (2) 実施日時は県立埋蔵文化財センターとの調整になります。ご要望にそえない場合がありますので、ご了承ください。
- (3) ご不明な点は県立埋蔵文化財センターまで、お気軽にご連絡ください。

### 6 申し込み・問い合わせ先

県立埋蔵文化財センター・「ワクワク考古楽」係  
〒899-4318 霧島市国分上野原縄文の森2番1号  
TEL: 0995-48-5315 FAX: 0995-48-5821

※ 過年度の授業の様子については、「上野原縄文の森・鹿児島県立埋蔵文化財センターのホームページ」→「資料収集、保存及び活用」→「西南戦争を掘り、学ぶ授業」からその実践例をご覧いただけます。



第1図 ワクワク考古楽 広報

銘打って、授業支援を展開している。

具体的な内容としては、以下の3つを行っている。

- (1) 埋蔵文化財センターの職員が、実際に県内で出土した遺物や写真などの、「本物」の資料を持って学校へ出向き、それらを活用して各校の授業内容や進捗に合わせた多面的な授業を行う。
- (2) 発掘中の遺跡での授業や発掘体験を行う。
- (3) 実施した授業内容等を再検討してまとめ、教員が主体的に活用しやすい教材（学習指導案を含む）として残す。

なお、実施した授業内容等をまとめ、活用しやすい資料集（学習指導案含む）として、ホームページで公開している。（第2図）

### ホームページ検索方法

上野原縄文の森》県立埋蔵文化財センター》資料収集、保存活用》西南戦争を掘り、学ぶ事業

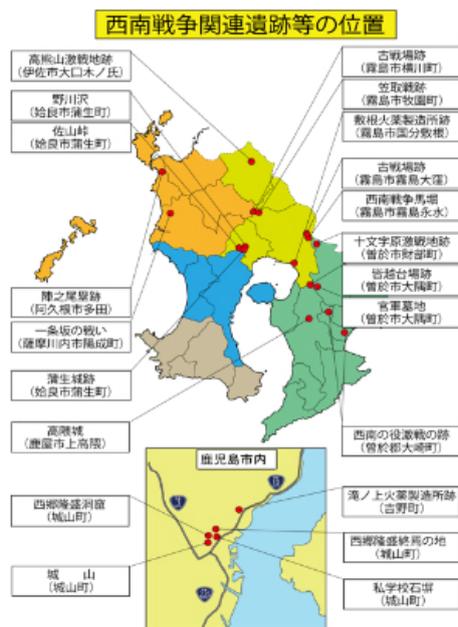
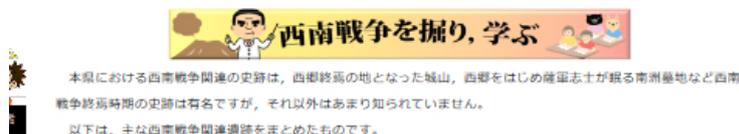
また、学校向け（授業支援・貸出事業）に、申し込み等の詳細を紹介している。

### 3 埋蔵文化財を授業に活用する意義

(1) 文化財保護法が求めていること

文化財保護法では文化財について、

- ①国民の文化的向上に資すること（第1条）
- ②日本の歴史・文化を正しく理解すること（第3条）
- ③将来の文化の向上発展の基礎となること（第3条）



県立埋蔵文化財センターでは、上記の西南戦争関連遺跡の中から、「麓ノ上火薬製造所跡（鹿児島市）」（現在調査中）、「高懸山遊撃地跡（伊佐市）」、「登壇戦跡（霧島市）」、「岩川首軍墓地跡（曾於市）」を、順次、発掘調査する予定です。

そして、遺跡近隣の小中学校、高等学校に埋蔵文化財センター職員が出向いて、これらの発掘調査の成果をもとに、出土品を活用した授業支援を実施する予定です。

また、実施した授業内容等をまとめた資料集（学習指導案を含む）も刊行する予定です。

【平成30年度の実践例】※クリックすると、実践例のページに移動します。

- 1 鹿児島市立玉瓶高等学校での授業支援（平成30年6月1日実施）
  - 2 南大隅町立神山小学校での授業支援（平成30年6月27日実施）
  - 3 鹿児島市立清水小学校での授業支援（平成30年10月30日実施）
  - 4 奄美市立奄美小・新日小での授業支援（平成30年11月21日実施）
- 麓ノ上火薬製造所跡の発掘調査経過について

【令和元年度の実践例はこちらから】

につなげていくことを求めている。そのためには、文化財を確実に保存し、将来に伝えることだけでは十分ではなく、多様な価値を認知し、幅広く享受することができるよう積極的に公開・活用する必要がある。

また、土の中から掘り出される埋蔵文化財（遺構・遺物）は、先人が実際に作り、使った本物である。児童・生徒にとって、本物に直接触れることは、地域の歴史や文化に対する知的好奇心を刺激するものである。埋蔵文化財は親しみやすい教材として、学校教育における社会科や歴史の学習・総合的学習さらに地層は理科の教材として活用することができる。また、文化財を通して、現在の生活の礎を築いた先人に対する尊敬の念を育み、生きる知恵や力や自然との共生や生命への尊厳等の心を学ぶこともできることから、文化財は現代の社会問題を見つめ直す教材として学校教育で活用することもできると考えられる。

(2) 学習指導要領が求めていること

平成29・30年度の学習指導要領の改訂により、小学校・中学校・高等学校において、文化財の活用について次のように記載している。

第2図 西南戦争を掘り、学ぶ事業 HP

博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること。

文部科学省編『小学校学習指導要領解説 社会科編』

日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果の活用や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなど具体的に学ぶことを通して理解させるように工夫すること。

文部科学省編『中学校学習指導要領解説 社会編』

その他の資料館などを調査・見学したりするなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際、歴史に関わる諸資料を整理・保存することの意味や意義、文化財保護の重要性に気付くようにすること。また、科目の内容に関係する専門家や関係諸機関などとの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること。

文部科学省編『高等学校学習指導要領 地歴編』

以上のように、文化財や博物館・資料館等の関係諸機関との連携を図り、民俗学や考古学などの成果を生かし、文化財を見学・調査することなどを通して、日本人の生活や生活に根ざした文化に関する学習の充実を明記している。このように埋蔵文化財を観察したり、出土遺物や写真を通して、本物に触れることは、児童・生徒の文化財の普及・啓発だけでなく、既存の学習の理解を深めることに寄与することになると考えられる。

#### 4 「ワクワク考古楽」の実績

平成30年度は、6校・3団体、令和元年度は、9校・1団体・令和2年度は10校（令和2年12月末現在）の学校や各種研修会等で実施した。



伊佐市教頭研修会

第1表 ワクワク考古楽実施一覧  
平成30年度

実施日	実施対象者	内容
R1.7.31	鹿児島県立大口高等学校（約40名）	高熊山激戦地跡関連
R1.8.20	伊佐市教頭研修会（16名）	高熊山激戦地跡関連
R1.9.2	薩摩川内市立里中学校（38名）	中町馬場遺跡関連
R1.9.3	薩摩川内市立里小学校（20名）	中町馬場遺跡関連・火起こし体験
R1.10.23	霧島市立牧園小学校（30名）	笠取戦跡関連・火起こし体験
R1.11.8	霧島市立牧園中学校（50名）	笠取戦跡関連・火起こし体験
R1.11.8	鹿児島県立国分高等学校（約300名）	舞鶴城跡・笠取戦跡関連
R1.11.18	長島町立獅子島小学校（12名）	長島町の古墳・火起こし体験
R1.11.18	長島町立獅子島中学校（11名）	長島町の古墳・火起こし体験
R2.1.29	霧島市立国分小学校（152名）	舞鶴城跡・笠取戦跡関連

#### 令和元年度

実施日	実施対象者	内容
H30.6.1	鹿児島市立玉龍高等学校（約100名）	世界遺産・滝ノ上火薬製造所跡関連
H30.6.27	南大隅町立神山小学校（約60名）	根占原台場跡
H30.7.31	瀬戸内町社会科部会（15名）	久慈白糖工場・戦跡関連
H30.8.1	瀬戸内町立古仁屋中学校 職員研修（20名）	久慈白糖工場・戦跡関連
H30.10.30	鹿児島市立清水中学校（約120名）	世界遺産・滝ノ上火薬製造所跡関連
H30.11.16	宇検村立田検中学校（宇検村内中学校合同 約80名）	久慈白糖工場・戦跡関連
H30.11.21	奄美市立朝日小学校（約100名）	久慈白糖工場関連
H30.11.22	奄美市立奄美小学校（約100名）	久慈白糖工場関連
H30.11.22	鹿児島県立奄美図書館（約30名）	久慈白糖工場関連
H31.2.16	鹿児島県立鹿児島工業高等学校 職員研修（10名）	滝ノ上火薬製造所跡関連
H31.2.26	鹿児島市立鹿児島玉龍中学校（約120名）	世界遺産・滝ノ上火薬製造所跡関連

#### 令和2年度（令和2年12月末実績）

実施日	実施対象者	内容
R2.6.9	和泊町立和泊中学校（50名）	縄文時代・弥生時代本土と沖永良部の遺跡
R2.6.10	知名町立知名中学校（30名）	縄文時代・弥生時代本土と沖永良部の遺跡
R2.6.19	出水市立江内小学校（25名）	学校周辺の遺跡・火起こし体験・竹細工作り
R2.6.24	南大隅町立佐多小学校（7名）	学校周辺の遺跡
R2.7.16	曾於市立榎小学校（11名）	学校周辺の遺跡
R2.7.29	鹿児島県立大口高等学校（30名）	伊佐市の遺跡・文化財
R2.10.8	曾於市立笠木小学校（24名）	笠木遺跡・地層観察・火起こし体験
R2.10.21	鹿屋市立吾平小学校（44名）	廣牧遺跡・地層観察・出土遺物観察
R2.11.2	曾於市立大隅中学校（189名）	岩川官軍墓地・大隅町の遺跡
R2.11.17	志布志市立尾野見小学校（9名）	岩川官軍墓地・周辺の遺跡



奄美市立奄美小学校



薩摩川内市立里中学校



志布志市立尾野見小学校

第3図 ワクワク考古楽の状況写真

## 5 鹿児島市立玉龍中学校の実践例

ここでは、鹿児島市立玉龍中学校の実践例（平成31年2月26日）を紹介し、埋蔵文化財の活用例を提示する。

なお、授業の実際は、湯場崎と山崎克之文化財主事で行っている。

### (1) 主な授業の展開

- ① 埋蔵文化財センターの紹介（発掘調査・報告書作成の概要）
- ② 世界遺産と発掘調査の成果
- ③ 学校周辺の西南戦争関連遺跡（滝ノ上火薬製造所跡の発掘調査成果

### (2) 鹿児島市立玉龍中学校指導案（略案）

- 主題 「ワクワク考古楽」
- 対象児童・生徒及び形式  
鹿児島市立玉龍中学校3年生120名・講演会方式
- 本時の目標
  - ・発掘調査成果を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、地域の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。（学びに向かう力）
  - ・近代化や西南戦争の発掘調査の成果や調査の写真や図面などの本物で学習することで、既習の学習内容を深めることができる。（知識及び技能）

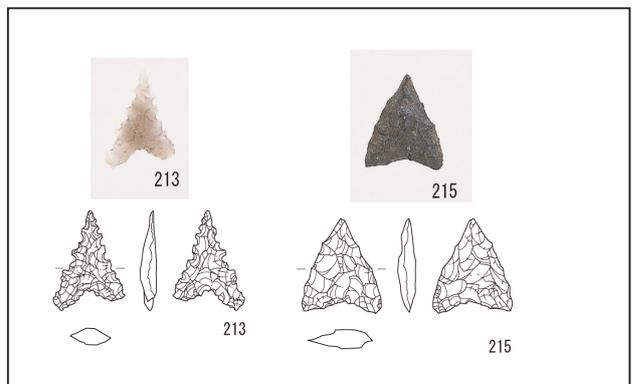
### ※指導案参照

以下に、実際の授業の展開を紹介する。なお、実際に使用したパワーポイントのうち主な図で紹介する。

### (3) 発掘調査と整理・報告書作成について



第4図



第5図

鹿児島市立玉龍中学校指導案（略案）

過程	生徒の活動	時間	センター職員指導及び支援内容	準備・留意点
導入	<p>1 埋蔵文化財センターの仕事紹介する。</p> <p>2 本時の目標をつかむ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     発掘調査成果から鹿児島の近代化や地域の文化財について理解する。                 </div></p> <p>3 鹿児島紡績所や技師館の発掘調査成果を知る。</p> <p>4 滝ノ上火薬製造所跡の歴史と教科書に出てくるような歴史と重ねて、身近な歴史と関係あることを知る。</p>	↑ 10 ↓	<p>○ 埋蔵文化財センターの仕事内容を簡潔に説明する。</p> <p>○ 鹿児島紡績所の発掘調査成果が、史跡指定の範囲に関わっていることを理解させる。</p> <p>○ 現在建っている技師館の位置が違うことが、発掘調査から判明したことやその経緯を説明する。</p> <p>○ 滝ノ上火薬製造所跡の歴史と教科書に出てくる歴史を比較させる。</p>	<p>○ 後に行けるように場所を確認する。</p> <p>○ 発掘調査成果から分かりやすいように説明する。</p> <p>○ 発掘調査の成果が、世界文化遺産にも活用されていることを確認する。</p> <p>○ 集成館事業には、あまり深入りしない。</p>
展開	<p>5 様々な史料が残っており、本物の史料を感じる。</p> <p>6 発掘調査の成果を知る。</p>	↑ 25 ↓	<p>○ 集成館事業の一つとして、滝ノ上や敷根火薬製造所が作られたことを理解させる。滝ノ上火薬製造所跡の発掘調査を紹介し、地域の残る文化財を意識させる。</p> <p>○ 草牟田火薬庫を襲って、西南戦争が始まり、その際、滝ノ上や敷根を官軍が砲撃して破壊したことを説明する。</p> <p>○ 西郷の私学校の生徒が、西郷に断りなく、政府の弾薬を奪い、これがきっかけとなり西南戦争が始まったことを知る。</p> <p>○ 写真を多用して、調査成果を確認する。</p>	<p>○ 年表と本時で学習した文化財の年代を比較する。</p>
終末	<p>本時のまとめをする。                      ・年表から教科書で習う歴史的な事柄が、身近な地域にある文化財と繋がりをあることを認識する。</p>	↑ 5 ↓	<p>○ 地域にある文化財が教科書にある歴史と密接に繋がっていることを説明する。</p>	

導入として、鹿児島県立埋蔵文化財センターの主な仕事内容である、発掘調査と整理・報告書作成の簡単な紹介を行った。第4図などを使い発掘調査は人力で行い測量や写真で記録を残すことを紹介した。その後、報告書になるまでの流れを説明した。

第5図のような図面を書く説明の際には、生徒たちは、その詳細さに驚いていた。発掘調査後に行われる整理作業や報告書になる流れを学習することで、埋蔵文化財センターの役割や文化財を確実に保存していく方法について、学ぶよい機会となった。

#### (4) 学習目標の提示

次に本時の学習内容を提示した。

##### 学習目標

発掘調査成果から鹿児島の近代化や地域の文化財を理解する。

学習目標の提示によって、学校周辺の遺跡を学習することを意識づけることとした。

#### (5) 発掘調査と世界遺産

玉龍中学校は、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である「旧鹿児島紡績所技師館跡」や「旧集成館機械工場跡」、「旧集成館反射炉跡」に近く、興味・関心が高いと考えられる。そこで、発掘調査成果により、鹿児島紡績所跡の範囲や、技師館の位置が当時と現在では、違うことが判明したことを紹介し、発掘調査が世界遺産に寄与していることを説明した。

2 なぜ「滝ノ上火薬製造所跡」の発掘を行ったのか？

明治日本の産業革命遺産の世界文化遺産  
(鹿児島県分)  
・旧集成館 ・寺山炭窯跡 ・関吉の疎水溝

鹿児島県には、  
西南戦争関連遺跡と近代化産業遺産が多くありますが、  
未調査

↓

遺産の調査をして、どの位残っているのか。  
どんな遺跡なのかを調査。

「かごしま近代化遺産調査事業（平成27・28・29年）」  
「西南戦争を振り、学ぶ事業（平成30・31・32年）」

第8図



第6図



第9図（東京国立博物館から引用）



第7図

#### (6) 発掘調査の実際

学校近くの調査である「滝ノ上火薬製造所跡」の確認調査成果を説明した。当遺跡は、幕末期から明治初頭において、日本最大級の火薬製造所跡であり、西南戦争勃発の契機となった場所である。この時期の単元は、小・中・高と必ず履修し、興味・関心も高い時代である。主な授業の展開は、以下のとおりである。

- ・ なぜ発掘調査を 行ったのか？（第8図）

↓

- ・ 滝ノ上火薬製造所の絵図・古図の紹介「本物」の資料提示（第9図）



第 10 図



第 11 図

- ・ 発掘調査の実際石垣の検出状況の説明（第 10 図）
- ・ 作成した図面の紹介（第 11 図）

本物を使用することで、発掘調査や明治維新前後の歴史的な知識・理解が深まったと考えられる。

#### （7） 発掘調査の成果

終末に調査成果をまとめ、過去の史料や絵図と発掘調査成果が合致し、今後の活用に行かせることを紹介した。

### 6 薩摩川内市立里小学校の実践例

次に、薩摩川内市立里小学校の実践例（令和元年 9 月 3 日）を紹介し、埋蔵文化財の活用例を提示する。

なお、授業の実際は、湯場崎と藤島伸一郎文化財主事が行った。

#### （1） 主な授業の展開

- ① 埋蔵文化財センターの紹介
- ② 里の遺跡である中町馬場遺跡から昔の人々の生活を知る
- ③ 本物の土器や石器に触れる
- ④ 火起こし体験

#### （2） 薩摩川内市立里小学校指導案（略案）

- 主題 「ワクワク考古楽」
- 対象児童・生徒及び形式

薩摩川内市立里小学校 5・6 年生 14 名

#### 授業及び体験学習方式

##### ○ 本時の目標

- ・ 地域の歴史を考察し、史跡・遺跡の文化財としての意義を認識する。また、本物の遺物に触れ、文化財の大切さを意識する。（学びに向かう力）
- ・ 上野原縄文の森に来ないとできない体験活動を行い、古代の人々の生活を体験して、古代の人々の生活を知る。（知識及び技能）

##### ※ 指導案参照

以下に、実際の授業の展開を紹介する。小学 5・6 年生で、授業形式だったため、クイズや考えさせる授業展開を意識した。

#### （3） 学習目標の提示

**里の遺跡**  
（昔の人の生活のあと）  
について学び、里の歴史  
を知ろう。

第 12 図

- ・ 学習目標「里の遺跡と昔の人々の生活を知ること」を明確にすることで、自分たちの住む地域の遺跡を学習することを意識する。（第 12 図）



第 13 図

- ・ どの遺跡を学習するのか、確認するため、クイズ形式で「中町馬場遺跡」の位置を確認した。（第 13 図）

遺跡 GIS を活用して、自分の住む場所にも遺跡があるか確認をした。児童は、自分の住む場所が遺跡であることに驚いた様子であった。

薩摩川内市立里小学校指導案（略案）

過程	生徒の活動	時間	センター職員の活動（指導内容）	準備・留意点
導入	<p>○埋蔵文化財センターの役割を業務内容から把握する。</p> <p>○地域に密着した歴史を学ぶ意義を確認する。</p>	10	<p>1 埋蔵文化財センターの業務説明 業務の内容の説明する。</p> <p>2 地域にどんな遺跡があるか説明</p>	<p>○業務内容説明には画像資料等を活用する</p> <p>○地区の遺跡分布図を提示する</p>
展開	<p>○自分たちの地域に鹿児島県でも、有数の遺跡があることを知る。</p> <p>○日本史での中町馬場遺跡の位置を把握する。</p> <p>○鹿児島県でほとんど発見されていない、弥生・古墳時代の骨が発掘されたことを理解する。</p> <p>○なぜ、肥後系（熊本）の土器が多く出土するのかを考える。</p> <p>○骨の写真から、当時の人々が、どんなものを食べていたかを想像する。</p> <p>○本物に触れてみよう。</p>	小学校 30	<p>2 中町馬場遺跡の概要説明</p> <p>(1) 卑弥呼や前方後円墳が作られた時期に中町馬場遺跡があったことを説明する</p> <p>(2) どんな発見があったかを説明する。人骨や土器・鉄刀の説明をする。</p> <p>(3) 土器の形から、鹿児島県の土器から、肥後系の土器が多く出土する理由を解説する。</p> <p>(4) 貝層から当時の人々がどんなものを食べていたかを理解する。</p> <p>(5) 埋蔵文化財センターから持ってきた土器や石器に触れて、本物を実感する。</p>	<p>○児童・生徒が、教科書の内容と結びつけて捉えられるような箇所を中心に選択する。</p> <p>○専門的にならないように留意する。</p> <p>○質問して児童・生徒に考えさせる。</p> <p>○当時の食生活を考えさせる。</p> <p>○本物の文化財なので、丁寧に扱うよう指導する。</p>
まとめ	<p>○遺跡や調査中の文化財を通じて地域の歴史的な位置付けを理解する</p>	5	<p>○文化財を通じて地域の歴史的な位置付けを伝える。</p>	<p>○通常の学習内容との連続性を意識したまとめを行う。</p>



第 14 図

(4) 里町の地理的な立地

・遺跡の位置から、里町の地形を理解した。遺跡のある場所は、昔から水や災害に強いことや、昔の海岸線を確認した。(第 14 図)

・弥生時代や古墳時代の土器から、九州各地とのつながりがあることを理解する。

(5) 中町馬場遺跡

中町馬場遺跡は、里町に所在しており、弥生時代の「貝の道」として、有名な遺跡である。児童の祖父母に、発掘調査に関わったとの発言があり、身近な遺跡と捉えてもらった。

主な展開は以下のとおりである。

・遺跡から出土した人骨の紹介 (第 15 図)

↓先祖の可能性もあるかもしれない



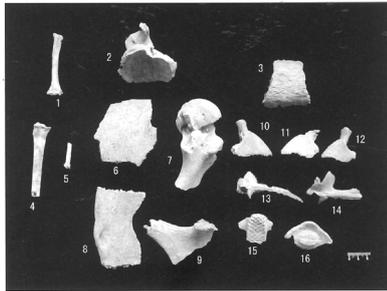
第 15 図



第 17 図

## 骨

貝に混じっていた骨を、専門家の方が分類してくれて、どのようなものを食べていたかわかりました。



第 16 図



第 18 図

- ・ 出土した骨から、当時の人々の食生活を考える。  
(第 16 図)

### (6) 本物の遺物を触れてみる

授業の終末には、弥生時代の土器や石器の説明を行い、実際に触れ、学習の成果を意識づけた。(第 17 図)

### (7) 火起こし体験

授業終了後、校庭にて火起こし体験を行った。事前に昔の人々の生活を学習したことで、より体験学習が地域の遺跡・文化財の理解を深めたと考える。(第 18 図)

#### 火起こし体験指導案

過程	生徒の活動	時間	センター職員の活動(指導内容)	準備・留意点
導入	○火をおこすための方法を知る。 ○マイキリ式の火おこしの方法・注意事項を聞く。	10	1 火おこしの方法の説明をする。 火打ち石・キリモミ。マイキリなど 2 マイキリ式の方法を説明する。	
展開	○マイキリ式の火おこしの実際を見て、学習する。 ○2人1組になり、火おこしの道具を準備する。 ○道具が準備できた組から、火おこしを体験する。	小学校 25	2 マイキリ式の火おこしの方法を説明しながら、実践する。 ■ 3 効率的な火おこしをアドバイスする。 4 火がおこせない組には、手伝う。	○児童・生徒が、教科書の内容と結びつけて捉えられるような箇所を中心に選択する。  ○やけどをしないように注意する。
まとめ	○火おこしの難しさを体験して、古代の人々の生活を想像する。 ○道具の片付けを行う。	10		○通常の学習内容との連続性を意識したまとめを行う。

## 7 まとめ

### (1) 成果

学校の規模や要望により、様々なスタイルで、授業支援を実施することができた。講演会方式と授業方式に、火起こし体験活動を加えることで、学習の理解を深めることになると期待される。また、出土遺物や写真を活用して、本物に触れることで、既存の学習内容についても、理解を深めることになったと考えられる。

本事業をしっかりと位置づけたことにより、埋蔵文化財センター内の専門職員知見の活用や上野原縄文の森との連携を図る機会も増え、互いの機関の強みを生かした授業展開ができたと考えられる。

さらに、「西南戦争を掘り、学ぶ」事業では、4島6回（令和2年12月）の「ワクワク考古楽」を実施することができた。これは、県立埋蔵文化財センターや上野原縄文の森の活用が難しい離島の学校にとっては、文化財の普及・啓発に、有効だと考える。

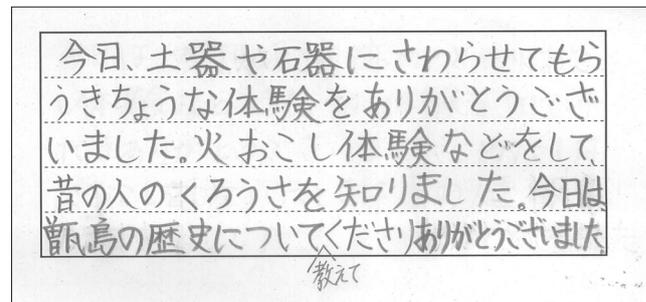
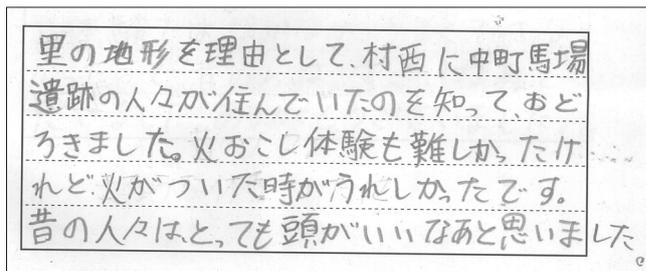
### (2) 課題

学校からの問い合わせ及び実施件数は、増える傾向にある。しかし、一般向け（研修や公民館講座等）利用・活用は、少ないのが現状である。まずは、教職員の方々に対して、利用・活用が増えるように、事業の周知を徹底したい。また、3年間実施した授業支援を踏まえ、事業の継続及び体制を検討する必要がある。特に、離島への実施継続が重要と考えている。

具体的には、学校や一般の方の要望に要望に応じ、普及啓発や研修に特化した体制構築が必要と考えている。これにより、文化財保護法や学習指導要領が求めている埋蔵文化財の積極的な活用へ繋がっていくと考えている。

### 【引用・参考文献】

- 文化庁 2007「埋蔵文化財の保存と活用（報告）－地域づくり・ひとづくりをめざす埋蔵文化財保護行政－」埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会
- 文部科学省編 2017『中学校学習指導要領解説 社会編』  
文部科学省編 2017『中学校学習指導要領解説 社会編』  
文部科学省編 2018『高等学校学習指導要領 地歴編』
- 高尾野町教育委員会 1992『江内貝塚』高尾野町埋蔵文化財発掘調査報告書（2）
- 出水市教育委員会 2000『出水貝塚』出水市埋蔵文化財発掘調査報告書（11）
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2020『出水貝塚』鹿児島県立埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査報告書（210）
- 東京国立博物館研究情報アーカイブス「火薬製造所」  
国師洋之 2012「埋蔵文化財を活用した授業の展開」『縄文の森から』第5号 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
宗岡克英「地域の素材を生かした社会科の学習指導－地域にある史跡や遺物を活用した歴史の授業を通して－」『縄文の餅から』第7号 鹿児島県立埋蔵文化財センター



第 19 図 里小学校感想抜粋

---

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要・年報 **縄文の森から** 第13号

発行年月 2021年3月

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811

E-mail [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)

URL <https://www.jomon-no-mori.jp>

印刷 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1

---